

第18回学術大会 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
日本OTC医薬品協会
スポンサードシンポジウム

日時：2024年5月26日(日)

会場：名古屋国際会議場 名古屋市熱田区西町1番1号

午前の部 9:15～11:10 第2会場(会議室222+223)

OTC医薬品分科会創設の意義と
新たなOTCの開発・提供・普及促進に向けて

座長 磯部 総一郎 日本OTC医薬品協会理事長

演者 武藤 正樹
分科会長、
社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事

中井 清人
厚生労働省医薬局医薬品審査管理課長

幸野 庄司
健康保険組合連合会参与

五十嵐 中
横浜市立大学医学群健康社会医学ユニット准教授

川瀬 一郎
日本OTC医薬品協会OTC研究・学術活動PJサブリーダー、
エスエス製薬株式会社

14:20～15:50 第1会場(会議室224) 午後の部

セルフメディケーションの将来像

座長 泉澤 勝弘
日本OTC医薬品協会OTC研究・学術活動PJリーダー、
アリナミン製薬株式会社、明治薬科大学理事

演者 尾崎 治夫 公益社団法人東京都医師会会長

岩月 進
公益社団法人日本薬剤師会常務理事、一般社団法人愛知県薬剤師会会長

川庄 尚
日本OTC医薬品協会OTC医薬品情報提供サイト構築PJリーダー、
佐藤製薬株式会社取締役学術部長

本田 麻由美
読売新聞東京本社編集委員、国立がん研究センター理事

スポンサー / 日本OTC医薬品協会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-15 イトーピア岩本町一丁目ビル4階
TEL:03(5823)4971(代表) FAX:03(5823)4974 URL:https://www.jsmi.jp

午前の部

5月26日(日) 9:15~11:10 第2会場(会議室222+223)

OTC医薬品分科会創設の意義と新たなOTCの開発・提供・普及促進に向けて

座長 日本OTC医薬品協会理事長 磯部 総一郎

演者

「OTC医薬品分科会設立の目的と意義」 分科会長、社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事 武藤 正樹

「行政からみた期待されるOTC医薬品」 厚生労働省医薬局医薬品審査管理課長 中井 清人

「健康保険の現状からOTCを含むセルフメディケーションの拡大について」
健康保険組合連合会参与 幸野 庄司

「セルフメディケーションの医療経済学的価値(スイッチOTCの医療経済学的意義)及び、
海外におけるOTCの使用視点からOTC医薬品、セルフケア・セルフメディケーションの推進」
横浜市立大学医学群健康社会医学ユニット准教授 五十嵐 中

「スイッチOTC医薬品の開発」 日本OTC医薬品協会OTC研究・学術活動PJサブリーダー、エスエス製薬株式会社 川瀬 一郎

午後の部

5月26日(日) 14:20~15:50 第1会場(会議室224)

セルフメディケーションの将来像

座長 日本OTC医薬品協会OTC研究・学術活動PJリーダー、アリナミン製薬株式会社、明治薬科大学理事 泉澤 勝弘

演者

「わが国におけるセルフケア・セルフメディケーションの重要性と将来像」
公益社団法人東京都医師会会長 尾崎 治夫

「今後のセルフメディケーションと薬剤師」 公益社団法人日本薬剤師会常務理事、一般社団法人愛知県薬剤師会会長 岩月 進

「OTC医薬品のデータベースについて」
日本OTC医薬品協会OTC医薬品情報提供サイト構築PJリーダー、佐藤製薬株式会社取締役学術部長 川庄 尚

「消費者の立場からOTCの使用、有効活用を進めるには」
読売新聞東京本社編集委員、国立がん研究センター理事 本田 麻由美

OTC医薬品は政府が進めるセルフケア・セルフメディケーション政策の中でもその普及推進が課題となっており、大きな課題のひとつはスイッチOTCラグ(スイッチラグ)にあると考えます。また、今後の現役世代減少社会の中では、医療提供体制の確保や国民皆保険の維持に関しても、大変厳しい時代を迎えつつあるかと思えます。このような状況下では、これまでの急性疾患対応薬のみならず生活習慣病を含めた慢性疾患治療薬や検査薬についても、OTC医薬品・検査薬等を提供し、地域医療の中でどのように適切に活用していくかが大事になってくると思います。

また、医療用医薬品として日本で薬事承認を取得していても、個人輸入を行い、偽造薬が紛れ込む事例も起こっており、このような医薬品の患者アクセスをどう確保するかも課題があります。

一方で、OTC医薬品のオーバードーズ(濫用)問題、品質不良による回収事例なども発生しています。さらにはOTC医薬品の有効成分のコード化やそのデータベースが十分整備されていないことから、医療用医薬品とOTC医薬品の重複投与や飲み合わせの確認が容易に行いにくいという課題もございます。

これまで、以上に述べた課題における関係者による議論の場がなく、アカデミアにおいてOTC医薬品・検査薬等の研究を行う人材も少なく、日本におけるOTC医薬品・検査薬等に関する医学薬学的、社会科学的なエビデンスの集積、使用実態も含めたリアルワールドでの情報収集は限られていました。

日本の医療の課題に即したOTC医薬品・検査薬等の範囲や活用方法を議論する学術研究の場や政策提言の場がなかったことから、OTC医薬品・検査薬等の健全な普及拡大を目的とし、将来的なOTC医薬品の学会立ち上げを目指す為の準備として「OTC医薬品分科会」を立上げることいたしました。

2つのシンポジウムでは、OTC医薬品の背景や健全な普及に向けた課題について、各界の第一人者が熱く語ります。